



『 化学療法について 』

化学療法とは、がん治療のひとつであり、内服や点滴で抗がん剤を投与し、がん細胞を死滅させる全身的治療法です。がん細胞だけでなく正常な細胞にも影響を及ぼすので治療の際、副作用が出現します。

副作用にはさまざまなものがあり、自覚症状として表れる吐き気や下痢、脱毛のほか、自覚症状として表われない骨髄抑制や肝機能障害などがあります。

このようなことから化学療法は、副作用が強いと思われがちですが、最近は副作用の対策が進み、苦痛を軽減しながら治療が受けられるようになってきました。

また近年、がん細胞だけを標的にする治療薬やがん免疫療法が登場しました。がん免疫療法とは、新しい作用をもつ治療法である一方で、これまでとは異なる副作用が生じる可能性があり、注意が必要になります。

化学療法は、がん細胞を死滅させる一方、副作用も伴う治療法です。治療を行う際は薬に対しての特徴的な副作用を聞くなどして、理解してから臨むようにしましょう。



鹿児島厚生連病院
がん化学療法看護認定看護師

木場 育美